



を育む会

第22回

発行日：令和6年6月30日
発行者：「じねんじょ」を育む会
会長 池内京子
下関市生野町2丁目28-20
社会福祉法人じねんじょ内

「親離れ・子離れ 心の距離を保つ」

「じねんじょを育む会」会長 池内 京子

「じねんじょ」ができる前、「旧・青山庵」は集まれば苦勞話が絶えず、それを吐き出してちょっと心が軽くなれば、という場でした。「レスパイト」という言葉すら知りませんでした。いつも親子は離れずにいて、それがあたりまえでした。それから「きのみ」⇒「じねんじょ」へと進む過程で次第に母子分離が始まり、日中離れていても、親子それぞれが安心して過ごせるようになりました。けれども、それには長い年月がかかり、夜間の分離などまだ遠く彼方にありました。母親の急用（親戚の葬儀や体調不良）で予告なく突然離された子どもが円型脱毛症になったという事件？もあり、離れられない、離れにくい親子関係はずっと続きました。介護者に不信感があるというのではなく、長年「この子は私でなければ」という母親のやり方に慣れてきた子どもは、ちょっとした介助の違

いにも敏感に反応して他人に心を開けなかったのだと思います。当分はいい、しかし、親は先に年をとる、体力がもたなくなる、子どもが自分以外の人（父親でもダメという子もいました）に慣れない状況をこのまま続けていたら、この先はどうなるだろう？ という新たな不安が生まれました。



「じねんじょ」は正にその不安を払拭させる親子共々試練の場であったと言えます。ここで子どもたちは親とは異なる他人の介護に慣れ、親は子どもと離れて心をリフレッシュする。その結果、互いの「心の距離を保つ」ということを学んだのではないのでしょうか。それには「じねんじょスタッフ」の並々ならぬ配慮と努力がありました。自分の休息より離された子どものほうが心配だという方もありましたが、いえいえ、子どもの成長率の方が大きかったようです。「しょうがいがあっても子どもはいつまでも幼な子ではない。与えられれば成長する心を持っている。今までしなただけ」ということを実感しました。そして、更に終いの場所（と思える）に入所した人もあります。親も早や後期高齢者になり、あの時があったからこそ今の場所に馴染める力がついたので納得されている方もあります。

蛇足ではありますが、その昔、長門の母が祖母（実母）を介護していた頃、在宅介護者の負担を少しでも軽くしようと、ショートステイの日に母たちを湯本温泉・大谷山荘に招待するという粋な計らいがありました。これぞ！レスパイトの先駆けです。でも、長年、母の世話を当然と思っていた祖母はきっぱりと断り、施設に泊まるのを断固拒否しました。「私は家がええ。お母さんが一番ええ」と。102歳だった祖母は母を親だと思ふ逆転現象で、私が母の為にと手伝いに行っても、何でも「お母さん、お母さん」と呼びます。当時の母は76歳。私もとうとう母の年になりました。介護保険もなかった当時、愚痴も言わず家で祖母を看ていた母に脱帽です。適当な「心の距離」は必要だったと、しみじみ振り返っています。



活動報告

◎「じねんじょを育む会」から以下の行事に助成しました。

馬関まつり 開催:令和5年8月19日(土)

昨年度まで新型コロナウイルス感染予防対策として、馬関まつりが中止されましたが、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、「第46回馬関まつり」が開催されることになりました。



この度は、まつりエリアの「愛のひろば」の出店団体が少なく、出店場所も市役所前の広場に変更されました。

毎年のように来店される方との出会いに「久しぶり」「元気でした」と声を掛けていただき、嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。



「じねんじょを育む会」より、出店活動の助成金をお渡ししました。

じねんじょフェスティバル

開催:2023年10月15日(日)



じねんじょ恒例の行事ですが、令和5年度は、コロナ感染予防の対策を行いながらの開催でした。じねんじょフェスティバルへ運営助成をしました。

イベントでは、フラダンスやウクレレ、下関少年少女合唱隊などがあり、バザーでは、花笑みの会などの親の会、福祉作業所からのパンや弁当などの販売出店がありました。

成人を祝う会 開催:令和6年2月29日(木)

今年2名のメンバーさんが成人(二十歳)を迎えられました。

「成人 おめでとう ございます。」

この度は、会場を下関グランドホテルにして挙行することになりました。そして、「ダブル成人」と称して40歳(20歳+20歳)のメンバーさんも一緒にお祝いをしました。

「じねんじょを育む会」からは、印鑑を贈りました。

実印や銀行印などにご活用していただければ幸いです。

「これからも、ご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。」



「むくっこ」(児童発達支援事業)に図書寄贈



未就学児童の子どもへの絵本や療育・保育関係の図書を贈りました。



○「じねんじょを育む会」会員のみなさまへ

平素より、本会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。さて、当会は社会福祉法人じねんじょが行う各種の事業が円滑に運営され、ひとりでも多くのしょうがいを持つ皆さんが安心して利用ができ、より豊かな活動ができますよう支援をさせていただいています。これからも、会員の皆様には引き続き会員継続とご入会のご紹介をいただき、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○「じねんじょ」ホームページに「育む会」掲載していますので閲覧下さい。

(<http://www.jinenjo.or.jp/hagukumu.html>)